

令和元年6月7日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284009

研究課題名(和文) 中国新出土文献の思想史的研究 戦国簡・秦簡・漢簡

研究課題名(英文) Study on History of Thought Regarding China's Newly Unearthed Literature: Warring States Slips, Qin Slips, and Han Slips

研究代表者

湯浅 邦弘 (YUASA, KUNIHICO)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30182661

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：近年、中国で次々と発見されている新出土文献(竹簡資料)を取り上げ、中国思想史研究の観点から読解を進めた。また、竹簡を所蔵している中国の研究機関・博物館などを訪問して資料の実見調査を行った。その結果、これまで不明の点が多かった中国の戦国時代から秦・漢代に至る時期の思想史的状况について、新知見をもたらすことができた。研究成果は多くの著書・論文として発表し、この分野の研究を牽引できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の歴史・文化にも多大の影響を与えている中国の古典については、すでにく多くの研究があるものの、今から二千年以上前の戦国・秦漢期の思想史的状况については、資料的な性格もあって不明の点が多かった。本研究では、新たに発見・公開されている新出土文献(竹簡)を主対象として研究を進め、その時期の思想史的状况を解明した。研究代表者は研究期間中に多くの著書・論文を発表したが、特に『竹簡学 中国古代思想の探究』(大阪大学出版会)により、「竹簡学」の名称の定着に貢献した。

研究成果の概要(英文)：We focused on newly unearthed literature (bamboo slips materials) that have recently been discovered one after another in China, and proceeded with reading from the perspective of the study of the history of thought. We also visited the research institutes and museums in China that housed bamboo slips and conducted observational research of the materials. As a result, new findings were generated regarding the situations of history of thought during the periods from China's Warring States Period to the Qin and Han dynasties, which previously had many unknown aspects. The research findings were presented in multiple books and papers, leading the research in this field.

研究分野：中国哲学

キーワード：中国哲学 出土文献 竹簡 清華簡 上博楚簡 北京大学竹簡

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1990年代に発見され、公開が始まった新出土文献は、中国古代思想史の研究に画期的な状況をもたらすこととなった。これまで伝えられてきた传世文献のみでは分からなかった思想の状況が二千年以上前の古墓から出土した簡帛資料により解明される可能性が出てきたのである。研究開始当初において、『上海博物館蔵戦国楚竹書』『清華大学蔵戦国竹簡』『岳麓書院蔵秦簡』『北京大学蔵西漢竹書』などが分冊方式で次々と刊行されようとしていた。これらの新資料を共同研究チームによって解読し、思想史研究に新知見をもたらすことを目的として、この研究は開始された。

2. 研究の目的

中国思想史研究の分野で世界的に注目を集めている新出土文献の解読を進め、中国古代思想史、特に先秦から漢代思想の形成と展開を明らかにすることを目的とする。具体的には、現在順次刊行が進められている『上海博物館蔵戦国楚竹書』『清華大学蔵戦国竹簡』『岳麓書院蔵秦簡』『北京大学蔵西漢竹書』等に基づいて、それぞれの新出土文献を、思想史・文字学の専門家からなる共同研究によって解読し、また、中国・台湾などで活発な活動を続けている出土文献関係の学会・研究会と学术交流を進め、さらには、上海博物館・北京大学・岳麓書院などにおいて出土文献の実見調査を行って、上記の解読作業を補完する。最終的には、これらの新出土文献の研究を通じて得られた新知見をもとに、新たな中国古代思想史の記述を目指す。

3. 研究の方法

公開が予定されている『上海博物館蔵戦国楚竹書』別冊、『清華大学蔵戦国竹簡』、『岳麓書院蔵秦簡』、『北京大学蔵西漢竹書』の各分冊について、まず、分担を決めて釈文・訳注の草稿を作成し、それを年5回程度の国内会合で検討していく。次に、その会合で得られた成果を基に各自が論考を執筆し、内外の学会で積極的に発表していく。一方、国際学术交流として、出土文献の現地調査、上海博物館・北京大学・岳麓書院など関係機関の訪問と資料調査、海外で開催される国際学会での研究発表を行う。さらに、日本国内における出土文献の研究拠点の形成を目指して、申請者の勤務校において新出土文献の国際シンポジウムを開催する。ここには、若手研究者も積極的に参加させ、出土文献研究の手法を次世代に伝授していくことも考慮する。

4. 研究成果

期間中の主な研究成果は、以下の通りである。

まず最大の成果は、学術書の刊行である。新出土文献の釈読や思想史的研究の成果は、研究グループでの検討を経た後、順次刊行した。年度順にあげると、湯浅邦弘『竹簡学 中国古代思想の探究』(大阪大学出版会、2014年)、竹田健二『先秦思想與出土文献研究』(台湾・花木蘭文化出版社、2014年)、中村未来『戦国秦漢簡牘の思想史的研究』(大阪大学出版会、2015年)、湯浅邦弘監訳『竹簡学入門 楚簡冊を中心として』(陳偉著、東方書店、2016年)、湯浅邦弘編著『清華簡研究』(汲古書院、2017年)であり、さらに中国語訳版として、湯浅邦弘著・白雨田訳『竹簡学 中国古代思想的探究』(中国出版集團東方出版中心、2017年)がある。これらの学術書によって、これまで知られることのなかった中国古代思想史の様相を解明することができた。研究成果を多数の刊行物という目に見える形で学界と社会に公開できたと考える。

次に、国際学術活動である。新出土文献の研究には、それぞれの資料を保管している研究機関や博物館などに赴き、資料を実見調査する必要があった。研究期間内に、我々研究グループは、精力的な海外学術活動を行った。2014年度に甘肅省博物館、甘肅省文物考古研究所、甘肅簡牘博物館、2015年度に北京大学と清華大学、2016年度に上海博物館、2017年度に安徽大学を訪問し、簡牘資料を調査するとともに、現地研究者と有意義な学術討論を行った。この活動が上記の学術書刊行に結びついていることは言うまでもない。

最終年度(平成30年度)は、これらの総括として、特に精力的な活動を行ったので、以下の三点をあげておきたい。

第一は、新出土文献「安徽大学竹簡」への対応である。2018年3月に研究代表者湯浅邦弘、分担者竹田健二、中村未来などが安徽大学を訪問し、未公開の安徽大学竹簡を実見調査する機会を得た。その実績をもとに、安徽大学竹簡情報をいち早く把握し、また、日本の学界に伝えるため、湯浅の勤務校の大学院の授業で、黄徳寛氏の論文「安徽大学戦国竹簡概述」(『文物』2017年9月、文物出版社)を取り上げて精読し、その日本語訳を『中国研究集刊』第64号(大阪大学中国学会、2018年6月)に発表した。

第二は、海外研究者との学术交流である。2018年4月に、出土文献研究に実績のある、耶魯-新加坡国立大学学院(Yale-NUS College)のスコット・クック(顧史考)教授をお招きして、大阪大学で講演会を実施し、出土文献研究の最新情報について意見交換を行った。

第三は、国際学会での研究発表である。2018年9月に中国の武漢大学で開催された国際学会「楚文化与長江中游早期開發國際學術研討会」に湯浅と竹田が出席し、各々出土文献研究に関する研究発表を行った。それぞれの題目は、湯浅邦弘「清華簡《管仲》的政治思想」、竹田健二「《越公其事》的竹簡排列和“劃痕”」である。また竹田は、10月に北京で開催された国

際學術論壇「早期中国的書写：在文本内外」（北京語言大学漢学研究所主催）に出席し、「左契口再考 契口と劃痕」と題する研究発表を行った。さらに、湯浅は、12月に中国広州の暨南大学で開催された国際シンポジウム「中日古代兵学：思想・歴史・文学の総合的アプローチ」に招待され、特別講演「銀雀山漢墓竹簡「論政論兵之類」考釈」を行うなど、積極的な国際的學術活動を展開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

湯浅邦弘、清華簡《管仲》的政治思想（『楚文化与長江中游早期開發國際學術研討會論文集』、武漢大学、査読無し、432-438頁、2018年）

湯浅邦弘、北大簡《老子》の性質 結構、文章及詞彙（『古簡新知 西漢竹書《老子》與道家思想研究』、北京大學出土文獻研究所編、査読有り、128-149頁、上海古籍出版社、2017年）

湯浅邦弘、「水戰」的思想 銀雀山漢墓竹簡 十陣（羅秉祥主編『先秦諸子與戰爭倫理』、中華書局、査読なし、349-379頁、2016年6月）

湯浅邦弘、清華簡『殷高宗問於三壽』の思想的特質（『中国研究集刊』第62号、査読あり、31-51頁、2016年6月30日）

湯浅邦弘、上博楚簡『舉治王天下』の堯舜禹伝説（武漢大学簡帛研究中心『簡帛』第9輯、査読あり、113-127頁、上海古籍出版社、2014年10月）

竹田健二、清華簡『越公其事』の竹簡排列と劃痕（『中国研究集刊』第64号、査読有り、49-67頁、2018年）

竹田健二、劃痕小考—以北京簡《老子》與清華簡《繫年》為中心—（『古簡新知 西漢竹書《老子》與道家思想研究』、北京大學出土文獻研究所編、査読有り、372-391頁、上海古籍出版社、2017年）

竹田健二、戰國時代の氣概念 以出土文獻為中心（『東亞觀念史集刊』第11期、査読有り、23-59頁、2016年）

竹田健二、清華簡『湯在啻門』における「氣」について（『中国研究集刊』第62号、査読有り、74-92頁、2016年）

竹田健二、戦国時代における兵家の氣の思想と新出土文獻（『中国研究集刊』第60号、査読有り、20-34頁、2015年）

竹田健二、先秦時代における儒家の氣の思想 戦国時代の竹簡資料を中心に（『中国出土資料研究』第19号、査読有り、63-84頁、2015年）

中村未来、戦国期における子産像 儒家系文獻を中心に（『中国研究集刊』第63号、査読有り、88-104頁、2017年）

中村未来、作為統治手段之「恥」：以《逸周書》三訓為中心（『東亞觀念史集刊』第11期、査読有り、311-337頁、2016年）

中村未来、清華簡『命訓』釈読（『中国研究集刊』第62号、査読有り、107-126頁、2016年）

中村未来、清華簡『周公之琴舞』考（『中國出土資料研究』第19号、査読有り、109-130頁、2015年）

中村未来、清華簡『周公之琴舞』の文獻的性格（《2014年國立高雄餐旅大學應用日語系「觀光、言語、文學」國際學術研討會論文集》、査読あり、85-102頁、2014年）

〔学会発表〕(計12件)

湯浅邦弘「銀雀山漢墓竹簡「論政論兵之類」考釈」（国際シンポジウム「中日古代兵学：思想・歴史・文学の総合的アプローチ」、暨南大学、2018年12月6日）

竹田健二「左契口再考 契口と劃痕」（国際學術論壇「早期中国的書写：在文本内外」（北京語言大学漢学研究所主催）、北京西郊賓館、2018年10月21日）

湯浅邦弘「清華簡《管仲》的政治思想」（「楚文化与長江中游早期開發國際學術研討會」、武漢大学、2018年9月15日）

竹田健二「《越公其事》の竹簡排列和“劃痕”」（「楚文化与長江中游早期開發國際學術研討會」、武漢大学、2018年9月16日）

湯浅邦弘「時令說的展開 北大漢簡《陰陽家言》與銀雀山漢簡“陰陽時令、占候之類”」（国際学会「中國簡帛學國際論壇 2017・新出土戰國秦漢簡牘研究」、武漢大学、2017年10月11日）

湯浅邦弘「北京大学竹簡『陰陽家言』に見る陰陽思想の伝播」（国際学会「第9回東アジア文化交渉学会」、北京外国語大学、2017年5月14日）

中村未来「戦国期における子産像 儒家系文獻を中心に」（国際シンポジウム「儒学蜀学と文献学」、大阪大学、2016年12月11日）

中村未来「做為統治手段之「恥」 以《逸周書》三訓為中心」（「哲學與世界」國際研究生哲學研討會）、台湾大学、2016年5月14日）

湯浅邦弘「殷高宗問於三壽 的思想特色」（「第二屆「先秦兩漢出土文獻與學術新視野」

國際學術研討會」、台湾大学、2015年10月18日)
竹田健二「清華簡 湯在壺門 的「氣」」(「第二屆「先秦兩漢出土文獻與學術新視野」國際學術研討會」、台湾大学、2015年10月18日)
湯淺邦弘「「主」與「客」 以兵家和道家為中心」(「先秦經典字義源流」國際學術研討會、香港浸會大學、2015年10月4日)
竹田健二「戦国時代における儒家の氣の思想」(中国出土資料学会平成26年度第1回例会、成城大学、2014年7月12日)

〔図書〕(計6件)

湯淺邦弘編著『清華簡研究』(汲古書院、2017年)
湯淺邦弘著・白雨田訳『竹簡学 中国古代思想的探究』(中国出版集團東方出版中心、2017年)(下記の中国語訳版)
湯淺邦弘監訳『竹簡学入門 楚簡冊を中心として』(陳偉著、東方書店、2016年)
湯淺邦弘『竹簡学 中国古代思想の探究』(大阪大学出版会、2014年)
竹田健二『先秦思想與出土文獻研究』(台湾・花木蘭文化出版社、2014年)
中村未来『戦国秦漢簡牘の思想史的研究』(大阪大学出版会、2015年)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
「中国出土文獻研究会」<http://www.shutudo.org/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：竹田健二

ローマ字氏名：TAKEDA kenji

所属研究機関名：島根大学

部局名：学術研究院教育学系

職名：教授

研究者番号(8桁)：10197303

研究分担者氏名：中村未来

ローマ字氏名：NAKAMURA miki

所属研究機関名：福岡大学

部局名：人文学部

職名：講師

研究者番号 (8 桁): 50709532

研究分担者氏名 : 清水洋子

ローマ字氏名 : SHIMIZU yoko

所属研究機関名 : 福山大学

部局名 : 人間文化学部

職名 : 准教授

研究者番号 (8 桁): 00709347

(2)研究協力者

研究協力者氏名 :

ローマ字氏名 :

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。